

『広い視野』&『現実認識』&『歴史意識』 ～ 『時代の要請』 ～

2024年4月25日は、『順天堂大学 → 新渡戸稲造記念センター → 東京女子大学』と『JR中央線の旅』であった。今回、『桃太郎』が鮮明に蘇って来た。『器量』といえば、『桃太郎』を思い出す。『鬼ヶ島遠征の物語』は、筆者は、子供時代、村のお寺の紙芝居でよく聞かされたものである。幼年期の教育は、人生の良き思い出となろう！

【桃太郎の器量——リーダーの胆力：『桃太郎』が『犬・雉・猿』という性質の違った（世にいう犬猿の仲）伴をまとめあげたことを挙げ、世に処する人は『性質の異なった者を容れるだけの雅量』をもたなければならないと 新渡戸稲造は『世渡りの道』（1912年）で述べている。 とかく、競争の名の下に、実は個人感情で排斥をする自称リーダーへの警鐘でもある。 —— 激しく移り変わる混沌とした世界の中で『広い視野』と『確固とした現実認識』と『深遠な歴史意識』をもち、『なすべきことをなしたい』ものである。】（『われ21世紀の新渡戸とならん』より（画像）、『新訂版』より（画像）

新渡戸稲造(1862-1933) 没後70年を記念してイーグレイプより『われ21世紀の新渡戸とならん』のタイトルで本が出版された(2003年)。この本は筆者が日本学会事務センターの広報誌『Scientia』に連載した文章を集めたものである。興味と関心をもって読んで頂いた人が、少なからずいたようである。これこそまさに予想外であり、『つもりちがい』である。新渡戸稲造は国際交流の『旧約』（『武士道』1900年）を125年前に書いたが、果たして『新約』は誰が書くのか、との問いかけも目立ってきた。『21世紀の世界の架け橋』をいかに構築するのかが『時代の要請』であり、『静思』のときである。

所詮われわれには、死ぬときは『畳一枚ほどの墓場』しか残らない。『勇ましい高尚なる生涯』の生き様を見せるしかない。精神的デフレが進む現代、『愉快に過激にかつ品性』を合言葉に4月27日は、早稲田大学エクステンションセンター中野校での講座に向かう。テキスト『新渡戸稲造 壁を破る言葉：逆境に立ち向かう者へ40のメッセージ』（三笠書房 出版；2023年10月発行）である。



**I Want to Be
the 21st Century NITOBÉ Inazō**



Okio Hino, M.D., Ph.D.